

1. 科目名 (単位数)	多文化共生教育特論 (2 単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5362
2. 授業担当教員	【池袋】坂井 二郎 【名古屋】内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	近年のグローバル化により在留外国籍住民数は平成 30 年度末で 270 万人を超えている。また在留留学生数も「留学生 30 万人計画」を超えている。また特定技能による在留資格により外国人労働者の数も増大している。この現状下で日本における多文化共生は現実的に直面している課題である。また国内における外国籍以外の多様な社会的マイノリティとの共生も教育的検討が必要な課題である。以上の多文化共生に付随する多様で複雑な課題に対応する多文化共生教育は今後の日本の初等・高等教育機関すべてで扱うべき重要な事項となることは自明であろう。その背景を踏まえ、本講義では世界各国が現在まで抱えてきた多文化共生教育の課題や解決策に目を向けると共に多文化共生の理念と構造・課題を扱い多文化共生教育の本質を考察していく。次に現代の多文化化する日本の教育現場における多文化共生教育の実際の課題と教育的取り組みについて様々な角度から具体的に検討していく。以上の授業内容を踏まえ、個々で設定した多文化共生教育に関する教育課題について文献研究または事例研究を実施し、今後の多文化共生教育の姿について検討を重ねていく。			
8. 学習目標	本講義における学修目標は以下の通りである。 1. 多文化共生教育に関するさまざまな理論、課題、取り組みを諸外国の事例を通して多面的に検討していくことでその本質について考察を深め自身で説明できるようになる。 2. 現代の日本の多文化化する教育現場における多文化共生の課題と取り組みについて事例を通して理解し自身で説明できるようになる。 3. 自身で設定した多文化共生に関する教育課題について文献調査を行い今後の多文化共生に向けた課題と解決策を提示できるようになる。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業内で適宜指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 特になし。 【参考書・教材】 「多文化共生」は可能か—教育における挑戦」馬淵 仁 (編著) 勁草書房 「異文化間教育—文化間移動と子どもの教育」佐藤部衛 (著) 明石書店 「多様性教育入門」大阪多様性教育ネットワーク 解放出版社 「多文化共生社会に生きる—グローバル時代の多様性・人権・教育」李修京 (編著) 明石書店 「多文化共生教育とアイデンティティ」金命貞 (著) 明石書店 「多文化「共創」社会入門」小林康一・川村千鶴子 (編著) 慶応義塾大学出版会 「多文化共生社会における ESD・市民教育」田中治彦・杉村美紀 (共編) 上智大学出版 「多文化理解と異文化コミュニケーション—多国籍学生チームと共に学んだ理論と実践—」平林信隆 「提言：教育における多文化共生」日本学術会議 地域研究委員会 多文化共生分科会 「平成 27 年度広域科学教科教育学研究経費研究成果報告書：多文化共生教育の枠組み形成のための基礎調査」吉野晃 (研究代表) 「多文化共生の推進に関する研究会 報告書 ～災害時のより円滑な外国人住民対応に向けて～」総務省 「多文化共生を促進する学習のあり方：留学生と日本人学生の混合クラスにおける人権教育の事例考察を通じて」宮本美能 (著) 大阪大学			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 多文化共生教育に関するさまざまな理論、課題、取り組みを諸外国の事例を通して多面的に検討していくことでその本質について考察を深め自身で説明できるようになったか。 2. 現代の日本の多文化化する教育現場における多文化共生の課題と取り組みについて事例を通して理解し自身で説明できるようになったか。 3. 自身で設定した多文化共生に関する教育課題について文献調査を行い今後の多文化共生に向けた課題と解決策を提示できるようになったか。 ○評定の方法 授業態度・・・・・・・・・・30% 授業内課題提出・・・・・・・・30% 最終レポート (発表含む)・・40%			
12. 受講生へのメッセージ	多文化共生教育はすべての人に必要かつ関連する教育です。本授業では多文化共生教育の理論と実践について多角的に学んでいきますので自分の経験と関連付けながら学びを深めていって下さい。			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	グローバル時代における多文化共生教育の理念と構造			
【学習の目標】	多文化共生教育の本質について歴史的背景とその理念や構造を踏まえ考察する。			
【学習の内容】	多文化共生教育が生まれた歴史的背景を理解すると共にグローバル化により多文化共生教育がどのように変遷しているか検討する。			
【キーワード】	ユネスコ憲章、世界人権宣言、児童権利宣言、人間環境宣言、グローバル化と多文化化			

<p>【学習の課題】 多文化共生教育を平和教育、人権教育、環境教育などが統合された教育として多角的にその本質を理解すること。</p> <p>【参考文献】 ユネスコ憲章、世界人権宣言、児童権利宣言、人間環境宣言</p> <p>【学習する上での留意点】 多文化共生教育の本質をユネスコ憲章、世界人権宣言、人間環境宣言などの平和教育に関する歴史的背景に留意しながら考察していくこと。</p>	
<p>2-4. テーマ</p>	<p>諸外国における多文化共生教育の施策事例</p>
<p>【学習の目標】 多文化共生教育に関するさまざまな理論、課題、取り組みを諸外国の事例を通して多面的に検討し理解する。</p> <p>【学習の内容】 多文化共生教育に関するさまざまな理論、課題、取り組みを諸外国の事例を通して多面的に検討していくことでその本質について考察を深める。特にアメリカ・カナダ・オーストラリアの事例から検討していく。</p> <p>【キーワード】 多文化共生政策、多文化主義、多文化・多言語教育、ESL 教育とバイリンガル教育、市民教育（シチズンシップ教育）、文化的多元主義、アフターマティブアクション、移民国家と非移民国家の多文化共生</p> <p>【学習の課題】 諸外国における多文化共生教育に関する政策を各国の歴史的背景と関連付けながら理解すること。</p> <p>【参考文献】 「提言：教育における多文化共生」、</p> <p>【学習する上での留意点】 諸外国の多文化共生教育はそれぞれの歴史的背景を反映して形成されてきているため特徴がある一方で共通性もある。その両方を関連付けながら学習を深めるよう留意すること。</p>	
<p>5-8. テーマ</p>	<p>日本の教育現場における多文化共生教育</p>
<p>【学習の目標】 現代の日本の多文化化する教育現場における多文化共生の課題と取り組みについて事例を通して理解する。</p> <p>【学習の内容】 現代の日本の多文化化する教育現場における多文化共生の課題と取り組みについて日本語教育、継承語教育、特別ニーズ教育、多様性教育、人権教育のそれぞれの立場から具体的事例または学術論文を参照しながら多角的に考察する。</p> <p>【キーワード】 オールドカマーとニューカマー、日本語教育、継承語教育、バイリンガル教育、特別ニーズ教育、インクルーシブ教育、ノーマライゼーション、多様性教育、人権教育</p> <p>【学習の課題】 外国籍児童に関する多文化共生教育の課題と取り組みだけでなく、日本人児童の多様性に配慮した広義の多文化共生教育の課題と取り組みも含め複眼的視野から考察すること。</p> <p>【参考文献】 「平成 27 年度広域科学教科教育学研究経費研究成果報告書：多文化共生教育の枠組み形成のための基礎調査」、「異文化間教育—文化間移動と子どもの教育」、「多文化共生社会に生きる—グローバル時代の多様性・人権・教育」、「多様性教育入門」</p> <p>【学習する上での留意点】 グローバル化の進行が日本の教育現場の多文化共生の課題と教育的取り組みにどのような影響を与えているのかを事例を通して具体的に理解するよう留意すること。</p>	
<p>9-11. テーマ</p>	<p>マジョリティへの多文化共生教育</p>
<p>【学習の目標】 日本の教育における多文化共生がマジョリティへの教育としてどのように実施されているか理解する。</p> <p>【学習の内容】 多文化共生教育は様々なマイノリティに対してだけでなくマジョリティや受け入れ側に対しても実施する必要がある。本授業ではマジョリティへの多文化共生教育の具体的取組について社会科教育、外国語教育の立場から考察していく。また学習指導要領の変遷とマジョリティへの多文化共生教育の関係についても検討する。</p> <p>【キーワード】 社会科教育における多文化共生、初等・中等教育における多文化共生、外国語教育と多文化共生、多言語教育、新学習指導要領</p> <p>【学習の課題】 多文化共生教育をマイノリティだけでなくマジョリティを含めたすべての人に必要な教育と位置づけ考察を深めること。</p> <p>【参考文献】 「提言：教育における多文化共生」、「新学習指導要領」、「新学習指導要領外国語コアカリキュラム」</p> <p>【学習する上での留意点】 マジョリティの自身の多文化共生教育の必要性に対する自覚の薄さの理由に留意しながら検討していくこと。</p>	
<p>12. テーマ</p>	<p>マイノリティとマジョリティをつなぐ多文化共生教育の試み：大学における多文化共生教育</p>
<p>【学習の目標】 マイノリティとマジョリティをつなぐ多文化共生教育について大学における教育的試みを通して検討する。</p> <p>【学習の内容】 日本における外国籍児童・生徒・学生などの教育的マイノリティと日本人児童・生徒・学生などの教育的マジョリティをつなぐ多文化共生教育の試みについて大学教育を事例として考察する。</p> <p>【キーワード】 混合クラス、多国籍チーム、</p> <p>【学習の課題】 多文化共生を促進する学習の在り方について学習者の意識や学習環境の役割を検討しながら学びを深めること。</p> <p>【参考文献】 「多文化共生を促進する学習のあり方：留学生と日本人学生の混合クラスにおける人権教育の事例考察を通じて」</p> <p>【学習する上での留意点】 マイノリティとマジョリティをつなぐ多文化共生学習の課題と促進について大学の授業における留学生と日本人学生の異文化コミュニケーションに留意して考察を深めるようにすること。</p>	
<p>13-14. テーマ</p>	<p>日本の教育現場における多文化共生教育の新たな取り組み：ESD と市民教育の立場から</p>
<p>【学習の目標】 日本の教育現場における多文化共生の今後の在り方について ESD（持続可能な開発のための教育）と市民教育を題材として考察する。</p> <p>【学習の内容】 日本の多文化共生教育の今後について ESD と市民教育がどのような役割を果たし、どのような意義があるかを検討していく。</p> <p>【キーワード】 ESD（持続可能な開発のための教育）、アジェンダ 21、SDGs（持続可能な開発目標）、環境教育、市民教育（シチズンシップ教育）</p> <p>【学習の課題】 日本の教育現場の今後の変化について検討しながら多文化共生教育の新たな局面について ESD と市民教育を題材として考察を深めること。</p> <p>【参考文献】 「多文化共生社会における ESD・市民教育」</p> <p>【学習する上での留意点】 多文化共生教育の今後の在り方について ESD と市民教育を参考として検討すると共に自分なりの考えを提示できるように準備すること。</p>	
<p>15. テーマ</p>	<p>今後の多文化共生に向けた教育課題と解決策に関する報告</p>
<p>【学習の目標】 受講生自身で設定した多文化共生に関する教育課題について文献調査を行い今後の多文化共生に向けた課題と解決策を提示できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 受講生自身が文献調査した多文化共生に関する教育課題について報告し、質疑応答により検討していく。</p> <p>【キーワード】 多文化共生に関する教育課題、</p>	

【学習の課題】 文献調査で考察した多文化共生の教育課題について自分の言葉で例示しながら説明できるようにする。

【参考文献】 特になし。

【学習する上での留意点】 多文化共生の教育課題についての文献調査について批判的に検討し自分なりの考察を加えるよう留意すること。